

様式第 3 - 2 号

削減計画実施状況報告書（内容）

事業所名	東洋ガラス株式会社千葉工場
事業所の所在地	柏市新十余二1-1
事業所の主たる業種及び事業概要	ガラスびんの製造
報告期間	令和 5 年度分
温室効果ガス排出量報告	◎基準年度 36,589 t-CO2（令和4年度） ◎当該年度 45,708 t-CO2（内訳は別紙1） ◎対基準年度削減量 -6,506 t-CO2 ◎対基準年度削減率 -16.59 %削減 ◎目標年度 47,347 t-CO2（令和6年度）
温室効果ガス削減実施内容 （増加している場合は、その理由と今後の対策も記入する）	<具体的に記入する（別紙も可）> 同業他社の規模縮小により生産量が増加したため温室効果ガス排出量が増加した。絶対値では増加しているが、生産量に対する比率としては減少している（約6.6%減）。 ・ガラス溶解炉の煙道灰の灰出しを実施（排風機の周波数上昇を抑制）。 ・ガラス溶解炉の蓄熱室のチェッカー（熱を溜める炉材）のクリーニングを実施し、蓄熱効率の回復を図った。 ・照明のLED化を実施。 ・圧縮エアの漏れチェックと漏れ箇所修理。 ・製品の小ロット化が進み、段取替えの頻度が増えているため段取替え後の歩留まり低下によるロスが増加している。対策として各調整箇所の数値化と見える化を進め、再現性の向上を図り歩留まりを向上させる。 ・ガラス溶解窯の重油からガスへの燃料転換、酸素燃焼の検討。 ・ソーダ石灰ガラス溶融の熱源として酸素水素燃焼炎を活用するための研究開発（NEDO事業）・1号ガラス溶融炉において、調合比を再検討することで、ガラス中の泡抜けが良くなり、溶解温度の低減が図れた。

	・ 1号ガラス溶融炉の炉壁の損傷個所に対してれんがでパッチ当てを行い、炉内への空気の侵入を防ぎ、原単位の悪化を抑制している。 ・ ガラス溶融炉の煙道灰の灰出しを実施(排風機の周波数上昇を抑制)。
--	---